

特集雑誌

自由國民

自由國民・第二二三号
昭和卅五年九月十日発行
昭和廿四年四月十一日国鉄
特別扱承認雑誌九七四号

特別号

9

自由國民社
発行

現代用語 の基礎知識

時代の鼓動を反響する新語年鑑

'60年拡大版

各界の權威

六十二氏

分担執筆

時局用語

近藤康男	山口茂	鈴木武雄	山田秀雄	長洲一	高島善哉	高木惣吉	高木信成	鵜飼清成	辻清明	中村哲	横田喜三郎
------	-----	------	------	-----	------	------	------	------	-----	-----	-------

文化用語

山田肇	吉田和	今泉篤男	本多顕彰	江上波夫	辻村太郎	西岡虎之助	林健太郎	戸川行男	宮原誠一	岸本英夫	高桑純夫	宮川実	大河内一男	野田全治	山城章	上坂西三
-----	-----	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	-----	-------	------	-----	------

科学用語

津村秀夫	春日由三	森崎実	城戸又一	大宅壮一	和達清夫	竹内端夫	萩原雄祐	宮木高明	杉靖三郎	高橋吉定	湯浅明	朝比奈貞一	藤岡由夫	茅誠司	辻二郎
------	------	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	-------	------	-----	-----

池田雄蔵	吉田健一	野村正七	福田蘭童	桑田忠親	高川格	木村義雄	渡辺義雄	山野愛子	マダムマサコ	黒田初子	平井信義	氏家寿子	清家清	吉川義雄	服部良一	神田順治	織田幹雄
------	------	------	------	------	-----	------	------	------	--------	------	------	------	-----	------	------	------	------

国際政治用語の解説

横田喜三郎

〔東京大学名誉教授〕

執筆に際して

国際情勢の変化はいつそう急テンポになるばかりである。一九六〇年は「黄金の年」として開幕したが、これはあながち経済の繁栄ばかりではない。キャンブ・デービッド会談、アイクの中近東訪問、フルシチョフの東南アジア訪問、あるいはマクミランの黒い大陸訪問は、世界の理解をいつそう深めた。しかし一方には、南ア事件、韓国、トルコ革命、つづいて世界の期待であった頂上会談は黒いジェット機の影でくずされてしまった。国際関係はこのように明暗ともに大きくゆれている。これらの国際情勢の変化を写して、国際政治用語の上にも、新しい事実とことばが次々に起こった。国際情勢にたいする広い、慎重な洞察を多くの事件の連鎖のなかに汲みとられるよう祈ってやまない。



国際法と外交

集団的安全保障 (collective security)

国家の安全を一国の軍備の増強や他国との同盟に求めず、国際社会の多数の国が共同して組織的に相互に保障する制度をいう。対立した諸国をすべて包含する点に、大きな特色がある。昔、国際関係がそれほど緊密でなかったときとちがい、今日のように一本化した世界では、国家の政治的独立および領土の保全、世界平和の維持にはかかる体制が必要とされるにいたった。国際連盟や国際連合はその現実の現われで、国際

間の争いを平和的に解決し、一度生じた平和の破壊にたいしては、経済制裁、武力制裁などの強制措置を共同して集団的に行なうことによつて、これを防止し鎮圧することにしてゐる。この点で国際連合はもつとも徹底し、五大国の拒否権の難点はあるが、安全保障体制はきわめて強固でかつ組織的である。

集団的安全保障取り決め

国連が集団的安全保障のための典型的組織であるが、対日平和条約第五条のいう集団的安全保障取り決めは、集団的安全保障を目的とする地域的な協定または機関を意味する。地域的機関

の強制措置には安保理事会の事前の承認があるが、北大西洋条約のように憲章第五十一条の集団的自衛権 (別項) の組織化として設立されるならば事前の許可を要しないのみならず、逆に理事会がなんらかの有効な措置をとるまでは自衛権の発動として武力攻撃に対抗できる。

安全保障 「集団的安全保障」参照。

「集団的安全保障」参照。

集団的自衛権 「集団的安全保障」参照。

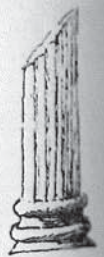
他国が武力攻撃をうけた場合、これと密接な関係にある国がその武力攻撃を自国の安全を脅かすものとし

て被攻撃国を援助し、共同して防衛に当たる権利。この国自体にたいしては現実の武力攻撃があることを必要としない。国連憲章第五十一条により創設された権利で、武力攻撃に際し安全保障理事会が必要な措置をとるまで個別的集団的自衛権の発動が許されている。これが認められたのは、安全保障理事会の保障が拒否権のため確実に期待できず、また米州相互援助条約のような地域的安全保障もその行動のためには事前に理事会の許可を要し、必要な際、活動不能になることを憂慮したためである。集団的自衛権が認められるこ

日本経済用語の解説

長洲 一 二

〔横浜国立大学助教〕



執筆に際して

最近の日本経済の動きは、まことに目まぐるしい。成

長率も高く、産業の近代化も急テンポだ。工場地帯はふくれる一方だし、都市にはぞくぞくとビルが建つ。農村にしてもカマとクワだけに頼る時代は過ぎ去ろうとしている。私たちの家庭生活にも洗濯機やテレビが必需品みたいに入りこんでいる。だが、はなやかな発展のかけに、停滞と没落の日かげの部分もある。また目まぐるしい変化の底に、案外変わることのない構造的問題もひかえている。私たちの目は、日なたと日かげ、けんらんたる外観とじめじめした構造的矛盾の両面に向けられねばなるまい。この項で取り扱った用語は、経済関係のほかの部分との重複を避けているので、利用に当たってその点を注意していただければ幸いである。

日本経済の構造

二重構造

日本経済の基本構造を明らかにするために、はじめ有沢広巳現法政大学総長が用い、その後「経済白書」などが宣伝し、学者の間にも、また官庁や実業界や労働組合などにもひろく普及してきたことばである。二重構造とは、ひとくちで言えば、日本経済には近代的分野と前近代的分野とが不可分の関係で並存していることをさす。この構造は戦前から日本資本主義の特徴であった。一方には近代的に発展した財閥大企業があり、他方その底辺には、そ

れに隷属する膨大な中小企業群と、前近代の色彩の濃い零細農民があった。この構造は、戦後も、多少形は変わっても根本的には変化がない。一方には、オートメーションを駆使する欧米先進国なみの近代的独占企業がある。ここでは従業員も大労働組合に組織されており、賃金水準も比較的高い。だが他方その底辺のほうは、設備も技術も昔ながらの手労働で、いわばその日暮らしの生業的企業が並びだしく群生し、大企業に支配されながら共倒れの競争をやっている。ここでは従業員は組合もなく、賃金も極度に低く、雇用

関係も前近代である。戦後の経済発展と近代化のなかで、この分極化が目立ってきた。しかもわが国では、この底辺部分が、企業の数でも従業員の数でも圧倒的に大きい。それゆえ、一見けんらんたる近代化と成長にもかかわらず、日本経済の構造全体としては、いっこうに近代化は進まず、これが今後の日本経済発展の最大のガンと見られるようになってきた。

業と、企業の規模が小さくなるほど、経営内容も、給与その他の労働条件も、急傾斜で悪くなる。たとえば賃金格差で見れば、従業員一万人以上の最大規模の企業の賃金を一〇〇とすれば、従業員百人から二百人の中規模企業ではその半分、従業員九人以下のところでは三分の一である。このように企業の規模に応じて急角度に悪化するので、二重構造を傾斜構造と呼ぶこともある。格差には、賃金のほか、いくつかの現象がある。生産性格差とは企業の規模により、従業員一人当たりが作り出す価値の大きさが異なる現象をさし、

格差現象

二重構造を基本的な特徴とするわが国の経済では、企業規模別格差がいちじるしい。大企業から中小・零細企

演劇用語の解説

山田 肇

〔明治大学教授〕



執筆に際して

わが国では今日でも、演劇といえは歌舞伎を考ふる場合がはなはだ多い。江戸時代以来の伝統演劇である歌舞伎はまだ広く迎えられるのである。しかし同時に近來は、新劇がしだいに広く迎えられる傾向にある。新劇は明治末以來ヨーロッパの近代劇運動の刺激によって起こったのである。ヨーロッパ演劇がわが国の演劇に刺激を与えはじめたのは明治初年以來であり、その影響は歌舞伎にも早くからは入り込んでいた。新劇はいうまでもなく歌舞伎までがヨーロッパ演劇の影響を受けてきたが、そこへさらにアメリカ演劇の影響が加わり、外來の刺激はますます激しく、そのなかにあってわが国の演劇は、あるいは外向的な、あるいは内省的なさまざまな反応を呈しつつある。演劇のそのような状況を反映した用語をおもに選んでみた。

演劇全般

芸術祭 詳しくは文部省芸術祭。演劇をはじめ、音楽、舞踊、演芸、映画、放送、レコードなどの諸部門にわたり、各芸術の向上発展と普及浸透とを図るため、昭和二十一年以來、毎年、文化の日を中心とする秋を期して、文部省の依頼する芸術祭執行委員の手によって行なわれる各種の催しの総称。

国民劇場 文部省が、東京

神田一橋にある、一橋大学の一橋講堂を、一年間百日を限って借り受け、これを、その依頼した運営委員に運営させるものを

いう。その目的は、わが国における近代演劇の育成に資するにある。

ITI (International Theatre Institute) 国際演劇協会。演劇を通じて国際理解を深めることを目的として一九四八年に創立されたユネスコの外部団体。日本にその支部が設けられたのは昭和二十六年。各国支部は、毎年一回、国際演劇月を催している。

都民劇場 主として東京都

民を対象に、東京都教育庁のきもいりで結成され、現在では独立した財団法人となった。会員制の観客組織で、演劇、歌舞伎、

新劇、音楽、映画の五つのサークルから成っている。

大向こう 元來は、舞台の向こう正面、最後部の客席をいう。現在でいえば、立ち見席およびその観客。

カーテン・コール (curtain-call) 幕切れに観客がかっさいして、俳優その他を舞台上に顔出しさせること。

テアトロン賞 新聞十二社でなる東京演劇記者会から、毎年、東京において上演された演劇を対象として贈られる賞(賞状とレリーフの記念額)でテアトロン (Theatron) とはギリシヤ語で見る場所を意味し、劇場

(theatre) の語源に当たる。

こけらおとし 新築された

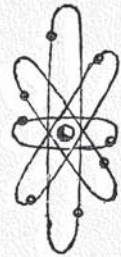
劇場の最初の興行をいう。**マチネー (matinée)** 昼間興行のこと。夜間興行はソワレー (soirée) とする。

プロデューサー・システム (producer system) 演劇の興行を行なうに当たり、ある脚本の上演を企画したプロデューサーが中心となり、その経済的責任において、適当な劇場、演出家、装置家、俳優その他を、一時的に契約して行なう方法をいう。これにたいして、演劇の公演が、恒久的成員を擁する劇団によって行なわれる場合には、

原子力用語の解説

藤岡由夫

〔埼玉大学学長〕



執筆に際して

今日原子力利用のいとぐちとなった核分裂の現象が発見されたのは一九三八年であり、世界最初の原子炉がシカゴ大学にできたのは、一九四二年である。すでに二十年ほどの日がたち、その間の原子力利用の進歩は目をみはるばかりである。アイソトープの利用によりアメリカの経済は一カ年に五億ドルの利益をあげているといわれる。一方原子炉は動力用、発電用として、英米ソ加仏などで実用に供され、また船の推進用としても米ソで目ざましい発展をみている。二十世紀後半はまさに原子力時代のはじまりである。わが国の原子力開発もようやく軌道に乗り、この方面のことが語られることも多くなった。しかし一般にはまだその用語が知られていない。そこでここでは原子力に関するごく一般の用語の解説をすることとした。

原子力一般

原子力 原子爆弾などのように原子核反応(別項)を人為的に制御し、その反応に伴うエネルギーを利用することが可能となった今日において、人類はまったく新しい型のエネルギー源を得ることとなった。すでに原子力発電所は、米英ソなどで実用化され、また原子力船も米ソで実現しつつある。この種の発電機関、動力機関などが生産的に利用されはじめると、まったく新しい産業形態が出現することとも予想され、原子力利用の将来は非常に問題であると考え

られている。現在開発されている原子力機関は、核分裂反応をゆっくり進行させ、その際発生する熱量を利用して熱機関を動かす型のものである。水素爆弾の原理である熱原子核融合反応の利用も、日本を含め各国で強力に研究が進められている。また放射性原子核のもつ放射能も一種の原子力であって、これを利用した原子力電池をはじめとし、医学、農業、工業などに広範囲の利用が実現しつつあり、この新しい手段は各方面に革命的な進歩をもたらしつつある。

原子核反応 元素は絶対不変とした近世化学者の考えは、

放射性物質の発見により打破されたが、その後、荷電粒子加速装置の進歩などによって、ほとんどすべての元素はその原子核に適切な粒子を衝突させることにより、他の元素の原子核に変えられることがわかった。このような原子核の原子番号、質量数などを変える反応を原子核反応と呼ぶ。ウランニウム二三五のよう、重い原子核が中性子の衝突により二つの原子核に分裂する反応を核分裂反応、重水素のよう、軽い原子核が二つ以上いっしょになる反応を核融合反応という。

原子核分裂反応と原子核

融合反応 原子核は質量数が中位のものがもっとも安定で、ウラン二三五のように質量数が高すぎて不安定な原子核が分裂して安定な原子核になる反応を核分裂反応といい、一方、質量数の低い原子核を結合させて安定な原子核をつくる反応を核融合反応という。この際、大きなエネルギーが放出される。原子爆弾や原子炉に使われているのは核分裂反応で、水素爆弾には核融合反応が使われている。核融合反応の平和的利用は研究の一大目標となっている。

連鎖反応 物質内で一つの反応が起こった場合、その反応

宇宙用語の解説

竹内端夫

〔東京大学助教授〕



執筆に際して

戦時中にドイツの新兵器として活躍したV2号ロケットを改良したアメリカは、はじめて地上二百キロの高さにロケットを打ち上げ、地球上層大気の様相や、宇宙線、太陽輻射線などについて貴重な資料を得ることに成功した。しかし垂直に打ち上げられるロケットにあつては、滞空時間はたかだか数分にすぎなかつた。一九五七年十月四日、第一号の人工衛星が誕生してからの、この分野の進展ぶりは目ざましいものがある。月に命中するロケットも打ち上げられた。人類のいまだかつて見たことのない月の裏面の写真をとつてみせてもくれた。太陽系の空間に飛び出していつて人工惑星となつたものもある。いま、ここに宇宙用語としていくつかを集めてみたが、なにぶん発足したばかりの分野なので、今後不完全な点を改めていきたい。

宇宙開発

宇宙空間科学研究 (space research) 国際協力により、ロケット、人工衛星などを用いて、地球大気の外側の天体間の空間における物理的諸現象について、国際地球観測年期間終了後も、研究を行なおうとするもの。観測には、電離層、太陽輻射(ふく)射、極光、夜光、地球電磁気、宇宙線、宇宙塵(じん)などの項目が含まれている。

宇宙空間

地球大気の上限はオーロラの出現高度などから千キロ内外と推定されていて、この範囲を大気圏と呼んでいる。

大気圏は流星や電波伝播、夜光スペクトルなどの観測、また近年急速に進歩したロケットや人工衛星の直接観測によつていろいろの研究が行なわれ、大気成分や空気分子の状態がしだいに明確になつてきてゐる。気象学で扱われている対流圏は地上十二キロまでの範囲、さらに八十キロまでの高さが成層圏である。八十キロから八百キロまでの範囲が電離圏で、大気組成粒子がイオン化した状態にある。それより高い部分は、地球大気の最高層のところを**外気圏**と呼ばれ、大気圏から**惑星空間**に遷移する層である。そこでは粒子は電離して

いない場合は、地球重力に打ち勝つて惑星空間に突入することが出来る。人工衛星の運行する軌道は、近地点の部分は高度数百キロの大気圏の範囲であるが、大部分は惑星空間である。惑星空間の外側は宇宙空間である。しかし、宇宙空間研究といった場合は、惑星空間も含まれると考えられる。

バンアレン帯

地球の赤道の上空五千キロおよび一万五千キロのあたりを取り巻いている二つのドーナツ型の放射能帯。発見者アメリカのアイオワ大学のバンアレン教授(Van Allen)の名を採つたもの。この正体は、

まだはつきりしないが、アメリカの科学者は、外側のバンアレン帯については、太陽からの熱いガス微粒子が地球の磁場に捕えられ強い放射能層を生んだのではないかとみている。この放射能帯を安全に突破する方法が発見されないうえ、宇宙旅行は危険だとされている。

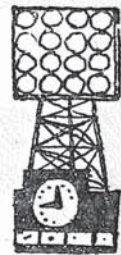
宇宙速度

物体を自由に落下させると、最初の一秒間に約五呎の高度を失う。したがつて打ち上げられたロケットが、その飛行する高さを変えないためには、この一秒間に同じ五呎だけ、地球から遠ざからなければならぬわけである。このこと

野球用語の解説

神田 順治

〔東京大学助教授〕



執筆に際して

野球の特徴は、人生のあらゆることが当てはまるような複雑な競技である点にひそんでいる。常に自己と全体との調和を保たねばならない。また野球は細心の注意と忍耐力と、最後までくさらずに食い下がっていくねばり強さ、フェア・プレーなどあらゆる長所がある。それゆえ、世の中のむずかしい問題も、野球を例にとつて説明するならば、機知に富んだ解説ができるのである。最近のテレビはじめマスコミの影響でファンの数は急激に増加し、全国のあらゆる階層に野球は浸透した。野球用語は、野球そのものをよりよく理解するためのものであるばかりでなく、すでに人事百般、処世上の共通のことばとして日常会話や社交上の会話に使われる。スポーツはユニバーサル・ランゲージといわれるが、野球用語は生きた社交語である。

プロ野球用語

メジャーリーグ (Major League) アメリカ・プロ野球の最上位のリーグのこと。大リーグともいう。ナショナル・リーグとアメリカン・リーグに分かれ、両リーグはおのおの八チームで構成される。ビッグリーグ (Big League) ともいう。

アメリカンリーグ (American League) ナショナル・リーグよりおそく一九〇〇年から発足した大リーグの一つ。ニューヨーク・ヤンキース、ボストン・レッドソックス、シカゴ・ホワイトソックス、クリーブランド

インド・インディアンス、デトロイト・タイガース、ワシントン・セネターズ、バルチモア・オリオールズ、カンサスシティ・アスレチックスの八チームからなる。

ナショナルリーグ (National League) 一八七六年から作られた大リーグ。サンフランシスコ・ジャイアンツ、ロサンゼルス・ドジャース、シカゴ・カブス、ミルウォーキー・ブレーブス、シンシナティ・レッズ、セントルイス・カージナルズ、ピッツバーグ・パイレーツ、フィラデルフィア・フィリスの八チーム。

マイナーリーグ (Minor League) アメリカ・プロ野球の小リーグ。その強弱によって AAA、AA、A、B、C、D の六階級に分かれる。

コースト・リーグ (Coast League) アメリカ太平洋岸にある AAA 級のリーグ。戦後、わが国に最初に來征したアメリカ野球チーム、サンフランシスコ・シールズが所属していた。

コンチネンタルリーグ (Continental League) 第三リーグ (通称) 新しくできるアメリカの職業野球リーグ。現在のメジャーリーグのアメリカン、ナショナル両リーグに次

ぐものとして第三リーグと呼ばれるのである。トロント、ニューヨーク、ボストン、デンバー、アトランタ、ダラス・フォート・ワース、ミネアポリス・セントポール、バッファロの八都市のチームで結成。一九六一年から発足の予定になっている。会長はブランチ・リッキー。二、三年後には三つのリーグでワールド・シリーズを行なうようになるうとリッキー会長は抱負を語っている。

ノン・プロ (non-pro) アメリカではプロ野球、すなわちオーガナイズド・ベースボール以外の野球。セミ・プロ、学生野

芸能用語の解説

吉川 義雄

〔NHK芸能局長〕



執筆に際して

芸能ということばは、ごく最近になってひんばんに使われだしたもので、おそらくは室町時代の申楽之能、田楽之能の「能」の字に「芸」をつけて包括的な意味を持たせるにいたったものであろう。明治のころは能芸といった文字が散見するが、これを引っくり返して芸能とし、安定した観念付けを行なったのは、折口信夫博士ではあるまいか。いずれにせよ、演劇も、音楽も、演芸も、民族芸術も、その他あらゆる娯楽的なものを包擁する文字となったようだ。あるいは、人の悪いのが芸能、すなわち芸ノ一（無し）と用いる場合もあるらしい。本書では、こうした広い空間から、他の独立した項目としてあるものを除いた、残余のものを取り扱ったが、いうところの雑芸についてスペースの関係から触れられなかったのが、遺憾の思いである。

軽演劇

ミュージカルス(musicals) アメリカにおいて形体をととのえた音楽劇とも称すべきもの。オペラの「アイダー」を「マイ・ダーリング・アイダ」と改編して演じたり、「サウス・パシフィック(南太平洋)」のように、現代風俗を、リアルに近い演技と音楽とでつないだものをいう。

ボートビル(vaudiville) 元来は、歌をはさんだ、軽い風刺的な演劇。のちには喜歌劇の一種をいう。アメリカではミュージック・ホールのこと。

ブルバール劇 商業劇場が立ちならぶパリの盛り場グラブールブル(Grand Boulevard)のことで、元来はフランスで、その劇場で行なわれる演劇あるいは上演される戯曲を、国立劇場のものと区別していった。転じて一般に、がいて通俗的な演劇あるいは戯曲をいう。

バーレスク(burlesque) 元来はイギリスの風刺的な演劇の一種。有名な演劇や劇界の流行をもじって茶化するのが特徴であった。今日ではレビューの一部に、その名ごりをとどめるのみ。今日のそれは、正しくはア

メリカン・バーレスクと呼ぶべきこの国特有の演劇、レッグ・ショー(leg show)をいわれ、ストリップ・ティーズ(strip teases)あるいはストリップ・ショー(strip show)略してストリップは一九二〇年ごろからその一部として行なわれはじめた。ファース(farce) 普通、「笑劇」と訳す。観客にさもあらなくと思わせることは犠牲にしても、ひたすら笑いをかうのに努める、喜劇の一つの形。

レビュー(revue) 元来は、歌、寸劇、バーレスクその他を取り合わせて、時事百般を風刺したもの。流行しはじめ

たのは二十世紀にはいつてからで、やがて、風刺は二の次に、踊りなどを加えて、見た目本位のものとなる。これにさまざま演芸を挿入し、ジャズを駆使して隆盛をきたした。

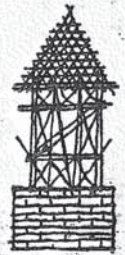
バラエティー(variety) ミュージック・ホールにおいて客席のテーブルが廃されてのち、そこで行なわれる演芸をさして呼んだ名称。バラエティーその他、見た目にはなやかな種目が加えられ、また全体の組み立てが精巧となる。

オペレッタ(operetta) 軽い、小さなオペラ。ライト・オペラ(light opera)に同じ。

住宅用語の解説

清 家 清

〔東京工業大学助教授〕



執筆に際して

工場などで「布のペーパーを持ってこい」などといっている。それでいて、そこで聞くと別にへんな気もしないのだが、考えてみればへんな話である。そのたぐいの日本的意味の外来語というものが多し。それから日本人の作った英語ふうのカナモジコトバ、薬品の名のような外来語ふうの新語というものは、日本語としての意味をつけてある。ベニア板というのは本来「合板」をつくる原料の薄板をいうのだが、普通、私たちはその薄板（単板）を重ねて作られた「合板」をベニア板と呼んでいる。アパートとアパートの違いは、鉄筋か木造かで違ってくるといわれているが、これは英語の教科書ではないのだから、アパートも載せてもいいのではないかと思っている。

日本語でペーパーといえはいわゆる紙やすりのこと

設計と工法

プラン (plan) 平面計画。

建築製図の一つ。建物の各階をある水平面で切って、間取り、出入口や開口部などを示す図面で、建築設計のもっとも重要な手段とされる。平面図にたいするものとして、立面図（エレベーション）、断面図（セクション）がある。プランニングというのは間取りをすること。

エレベーション (elevation) 立面図のこと。俗に略してエレベなどともいい、表面だけがrippで、裏へ回るとお粗末な商店建築などを軽蔑的というとき

に「エレベはよいが……」などという。

パース (perspective drawing) 透視図の略称。姿図のことである。

ディテール (detail) 詳細図のこと。普通、二十分の一縮尺で書かれている。

建築士 建築物の設計および監督をする人の資格で、建築士法により、一級二級の別がある。一級建築士はあらゆる建築物の設計および監督をすることができるが、二級建築士は建築物の種類や大きさで限度がある。すなわち木造百平方メートル以下の建物の場合は建築士の設計でなく

ても許されるが、規定の申請をして、許可を得なければならぬ。

この届け出は従来の建築代理士も、建築士と同様に代行することができる。ただし、十平方メートル以下の建物は、工事前に届け出をしなければよい。

設計料 日本建築家協会の規定によると、住宅の場合、設計料および監理料は工費百万円以下で一〇%、百万円以上は額に応じて率が減少する。

シェルまたはシャーレン (shell, Schalen 独) 殻構造と訳す。曲板鉄筋コンクリート構造で、大波形や、ドームふうの構築したもの。最近あちこちの

建物に見られる。

ファサード (façade 仏)

建物の正面。通常、主要な出入口を持つ立面をいう。ときには側面、または背面についてもいわれる。その形式や意匠は設計上重要視されること。

マンサード (mansard) 二重屋根または腰折屋根という。軒端を急勾（こう）配に、頂上をゆるい勾配にした形の屋根で、屋根裏を利用できる。

折板構造 びょうぶのようになり、折り曲げると平板のものより丈夫な構造が作れる。屋根も壁も、こういう板を折り曲げたような構造で造ると、材料が節

服飾用語の解説



執筆に際して

洋裁に關することは、男子服はイギリスから、そして婦人服はだいたい、パリをもとにして世の中へ出てくるようになっていきました。そのなかで、すぐ消えてしまつてなくなつてゐることもばあり、何十年何百年残つていくものもあるのです。たとえばチェックとか水玉とかいった柄は十七世紀にもう一つの動かすことのできない存在としてあつたものらしいのです。それで、まあ、いちばん滅びないと思えるもの、現在、専門家のうちでももっとも使われているもの、また流行雑誌(外国のでも)をぐらんになるとき、わからないかもしれないというものを説明しておきました。日本は、洋裁ということが始まつて歴史がまだ浅いので、現在でも、少し間違つて使われているところもありますので、そんな点も調べて訂正しておきました。

マダム・マサコ

〔デザイナー〕

色(いろ)

ベージュ (beige) うちす茶色だが、ちよつと赤味のさしたものだもの。
タバコ・ブラウン (tobacco brown) タバコ色の茶。つまり、タバコの葉をかわしたような、すこし黄味がかつた茶色のこと。
マロン (maroon) 栗のこと。茶で、少し赤みのかかつて黒ずんだ栗の皮のような色。
シャンペーン・カラー (champagne colour) 洋酒のシャンペーンのような色。透明な明るい感じの薄茶。

ワイン・カラー (wine colour) ぶどう酒の赤い色。この色の代表は、フランス・ピロードに昔からあるもの。
ベビー・ピンク (baby-pink) 薄い、柔らかい感じのするピンクで、赤ちゃんのウブ着用に使われるのでいう。同じ意味で、ベビー・ブルーというものもある。

コーラル (coral) 「サンゴ」のこと。明るい朱がかつた赤にすこしピンクが交じつた色のこと。コーラル・レッドなどもいう。
サーモン・ピンク (salmon pink) 鮭のようなピンク。鮭

の切り身にうっすり脂がのつている色。つまり、脂肪の黄味を透かして見たピンク色。

パープル (purple) 紫。わりあいに濃い色で、深い赤味のある紫。日本では江戸紫といつてゐる色。

モーブ (mauve) 紅紫色。
モス・グリーン (moss green) 黄色がかつた苔(こけ)のような緑色である。

エメラルド・グリーン (emerald green) 宝石のエメラルド色、あざやかなグリーン。フランス語では、エメロード。
クローバー・グリーン (clover green) モス・グリー

ン(別項)の黄色を取つたクロールの葉の色に似たグリーン。
パイン・リーフ・グリーン (pine leaf green) パイン・リーフは松の葉のことで、松の葉のように黒みがかつたグリーンをいう。

セルリアン・ブルー (cerulean blue) 真つ青な空の色。たとえば、コバルト・ブルーのようにちよつと赤味のあるのと違つて、ぜんぜん赤味のない、青そのものの色。

ターコイズ (turquoise) 「トルコ玉」のような緑がかつた青い色。ターコイズ・ブルーとか、ターコイズ・グリーンと

趣味用語の解説

日本写真家協会会長
第九期本因坊
随筆家

渡辺義雄
高川格
福田蘭童

第十四世名人
木村義雄
国学院大学教授
桑田忠親
〔カメラ〔渡辺〕将棋〔木村〕囲碁〔高川〕茶・生花〔桑田〕ギャンブル〔福田〕〕



執筆に際して

「マス・レイジュア」ということばは、大衆的な暇つぶしとでも訳されるものであるが、今日アメリカでは大きな社会問題として論じられている。黄金の六〇年を境として、大衆の消費生活は物心ともますます広がっていくことであろうし、これは世界的な規模におけるものでさえある。趣味の世界もこれに依じて多種多様で、新しい機械と新しい手法が生まれる一方、古いものはますます深みを増していくものである。ここにとりあげた趣味用語はわずかに数種類の世界のものにしかな過ぎないが、生活のなかにもっとも深くはいたものである。したがって専門家から見れば、物足りないものであろうが、社会人としては、生活のアクセサリとして、それぞれの場で生彩あるものとして使うことができよう。



カメラ

プリズマ・カメラ (prisma-prism camera) または pentaprism camera) 一眼レフの改良形式。レンズからはいった光線はフィルム直前にある四十五度傾斜の鏡面上に反射され、従来のピントガラスの位置に置かれた精巧なペンタプリズム(五角形プリズム)で二回反射されて、のぞき窓から見るとフィルム面と等大の正像に見える。レンズ交換可能、視差がない。

ゼンザ・ブロニカ 国産六×六判一眼レフの名称。ゼン

ザは考案者吉野善三郎の善三をとってつけられた。スエーデンのハッセルブラッド・カメラと似ている最高級品。

ポラロイド・ランド・カメラ (Polaroid Land camera) アメリカのポラロイド会社のエドウィン・H・ランド考案の一分間写真機。撮影機構は普通だが、後部の感光紙装備部に特徴がある。特殊のネガ感光紙で撮影し、感光紙ホルダー内で移動させてポジ感光紙と重ね合わせる。そのとき、のり状の現像薬が両紙の間に全面に塗布され、約一分間でネガの現像とポジへの黒白反対の拡散転写が行なわ

れて普通の黒白写真ができる。写真は三、四カ月の寿命で永久性はないが、速報原稿として便利。このカメラの後部をポラロイド・バックと称し、スピード・グラフィック・カメラ、リンホフ・カメラなどにも装着使用できる。

一眼レフ・二眼レフ レフとは、ミラー・レフレックス・カメラ、すなわちレンズを透過した光をミラー(反射鏡)で屈折してピントガラスに投影させて焦点を合わせる式のカメラをいう。焦点調節用レンズと撮影用レンズの二つのレンズを備えたものを二眼レフ、両者兼用で

一つのレンズを備えたものを一眼レフという。この型の特徴はピントガラスに映像が映るのでピンボケの心配がなく、そのうえ、ピントガラスにはフィルム面に映るのと同じ大きさで像が映るので、画面構成がとりやすい点にある。二眼レフは、構造上、撮影中もピントガラスの映像が消えないのにたいし、一眼レフは共用レンズのため、シャッターを押すと同時に反射鏡がはね上がって映像が消える欠点があるが、二眼レフのレンズ交換ができないのにたいし、一眼レフはレンズ交換ができるという利点がある。